

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	一般小売店〔紙類〕（経営者）	単価の動き	・9月に入り生活にゆとりのある客層が観光に出る傾向にあり、観光客の購入単価が徐々に上昇している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・商品1個当たりの価格は低下しているが、買上点数が増加することで客単価が上昇している。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	来客数の動き	・今年は気温の高い時期が長期にわたったため夏物を求める客が増加し売上も増加した。
		その他専門店〔海産物〕（経営者）	来客数の動き	・今月も個人、団体共に来客数が多く売上も伸びている。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・全体的に工事件数は伸びておらず、猛暑の影響で客の工事決断の動きも悪い。
	変わらない	百貨店（営業担当）	単価の動き	・9月前半は厳しい残暑で来客数は増加したものの、客単価は低いままで大幅な売上増加にはつながらなかった。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・暑い夏が終わり秋になればと期待していたが、彼岸まで真夏のような気温が続き、ほとんどのテナントが前年同月の実績を下回っている。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・比較的堅調な動きをみせていた宝飾、高級婦人服が2か月連続して前年を下回っている。ファッションは多少気温の影響もあるが、高級ゾーン全体の低迷から景気好転の気配は感じられない。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・9月は記録的な残暑で衣料品の秋物が前年比85%程度と厳しい状況である。ブーツの売上も前年比60%程度で特に20日まで苦戦した。一方物産展、食品、家庭用品は前年実績をクリアしている。また、20日以降は衣料品も前年を上回る日もでてきたが、全体としては前年比97%程度である。
		百貨店（購買担当）	お客様の様子	・今月上旬は気温が高く、秋物の動きがなく夏物の買換えもなかったことから厳しい状況だったが、中旬以降気温が下がるとともにジャケットやブラウス等の単価の高い秋物商品が動くようになり、今月は当店も予算達成が見込める。
		百貨店（販売担当）	お客様の様子	・売上は前年に近い状況だが内容は割引き及びセール拡大によるもので、残暑の影響もありプロパー売上は厳しい状況である。客の消費マインドは依然として低調で上向くことはない。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・催事の売上は良かったが、日々の外販や売上は厳しい状況が続いている。
		スーパー（店長）	単価の動き	・ここ半年以上客単価が前年比96～98%で前年を下回る状況で推移している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・前月までに比べ来客数は回復傾向にあるが、野菜高騰などの影響で買上点数の伸長が困難で客単価が上昇せず売上確保が厳しい状況である。
		スーパー（開発担当）	販売量の動き	・野菜等生鮮関係の単価の上昇で買上点数は前年を下回っているものの売上金額は水準を維持している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・今月はたばこの値上げの影響で売上は非常に伸びているが、来客数は前年並みで良い状況とはなっていない。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・月の後半は涼しくなったが、前半の残暑による売上不振をカバーできてはいない。ただ、気候だけではなく景気が悪いという世論が買い控えを助長していることが懸念される。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・たばこの買いだめは多いが、客はそのことで他の商品の購入をセーブしている。
衣料品専門店（店長）		お客様の様子	・今月前半は残暑の影響で秋物の動きがなかったが、中旬から少しずつ動きが出ている。しかし、政治の状況等もあり客の購買意欲の高まりには至っていない。	
衣料品専門店（販売促進担当）	単価の動き	・今月は早めにセールを開催したことで来客数、売上共に好調だったが、依然として客単価は低く、客は低価格帯への関心が強く、買得品をよく見極めており、価値ある商品の値下げには反応が良い。		

衣料品専門店 (地域ブロック 長)	単価の動き	・競争激化による1品当たりの単価の低下傾向は続いているが、販売個数の増加が見込めていない。客は必要な分だけ購入している。	
家電量販店(店 長)	単価の動き	・単価の低下が止まらない。特にテレビの価格は年々低下しており、今後12月に向け更に低下する。	
その他専門店 [時計](経営 者)	来客数の動き	・不景気の影響もあるが、今月中旬から当地は農繁期に入ると共に、休日は運動会などのイベントがあり商店街への客が少なかったことから売上が減少している。また、観光客も昨年同時期より減少している。	
その他専門店 [和菓子](営 業担当)	来客数の動き	・昨年9月の大型連休のような大幅な増加要素がなかった。	
観光型ホテル (支配人)	販売量の動き	・9月は月末に大型団体の連泊があり全体としては前年並みの売上が確保できたが、料飲部門はすべての部門で、前年を下回った。余分な出費は見込めない状況である。	
都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・宿泊客数はやや増加傾向で伸びているが、料飲客数が減少しており全体として大きく変わっていない。	
都市型ホテル (従業員)	来客数の動き	・ホテル全体では7～8月と前年売上を上回ったが、レストランは減少しており個人消費の厳しさがうかがえる。	
都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・宴会や宿泊は前年と比較して横ばいであり、来客数、売上ともに変化がない。	
タクシー運転手 タクシー運転手	お客様の様子 販売量の動き	・夜飲みに出る客数が回復していない。 ・8月は人出も多く景気も上向くかと思われたが、9月は「第25回国民文化祭・おかも2010」関連の客が目立つぐらいで落ち着いてきた。ただ1人当たりの売上は前年比10%増が続いており総売上は前年並みとなっている。	
通信会社(企画 担当)	販売量の動き	・商品の動きが全体的に鈍っている。	
通信会社(営業 担当)	お客様の様子	・客のシステム構築意欲がなく、経費節減に係る依頼が多い。	
通信会社(広報 担当)	販売量の動き	・8月の純増数は昨年12月以降の10万以上の水準を継続し堅調に推移している。販売は前月水準には届かなかったが、モバイルWi-Fiルータを中心としてデータ通信端末の販売が好調に推移した。競合他社のスマートフォンの影響で他社流出に歯止めがかからず、MNP市場では継続して苦しい状況で推移している。	
競艇場(職員)	販売量の動き	・売上金額及び来客数ともに横ばいである。	
設計事務所(経 営者)	お客様の様子	・収入の減少で消費マインドへの悪影響が懸念される。	
設計事務所(経 営者)	単価の動き	・受注価格が低下し続けており、価格の単価上昇が全く望めない。	
設計事務所(経 営者)	来客数の動き	・戸建て新築住宅の設計依頼がなくなって1年が過ぎる。その間、住宅版エコポイント制度が始まっているが、好転の兆しはみられない。個人消費の落ち込みの影響もあるが、先行きが全くよめない。	
住宅販売会社 (販売担当)	来客数の動き	・売出イベントを実施しても来客数が計画の半数にも達しない。	
やや悪く なっている	商店街(代表 者)	来客数の動き	・季節的な要因で来客数が減少している。特に昼時の客単価や夕方の来店客数が顕著である。
	商店街(代表 者)	販売量の動き	・株価の下落、円高による価格低下への懸念等の影響で買い控えが表面化している。
	一般小売店 [茶](経営 者)	お客様の様子	・経済が冷えきっており、どこも売上を上げることに必死の状態である。当商店街でも「天神市」があり、人出はあるものの売上につながらず、しらけた感じが漂っている。
	一般小売店[酒 店](経営者)	お客様の様子	・運動会の打ち上げ等で飲食店では人の動きもあったが全般的には閑散とした状況である。たばこの値上げに伴う買い置き需要での売上の増加はあるが、中旬までは厳しい残暑で軽い食事が目立ち売上が減少している。
	一般小売店[酒 店](経営者)	販売量の動き	・依然として料飲店の販売量は伸びておらず売上が減少している店が目立つ。

一般小売店〔印章〕（営業担当）	来客数の動き	・駅再開発により駅のほとんどの商業施設の退店が決まっており、数年前から全体的なりリニューアルや各店の改装ができず、ほぼ全店が毎月前年比の売上を伸ばせない状況が続いている。	
百貨店（売場担当）	お客様の様子	・今月は前半残暑が非常に厳しかった。後半気温が下がったものの、客の購買意欲は上がっていない。	
百貨店（営業企画担当）	単価の動き	・購買客単価は前年同月比でマイナスとなっており、特に高額商品の単価の減少が著しい。	
スーパー（店長）	単価の動き	・客単価と共に1人当たりの買上点数がかなり減少している。	
スーパー（店長）	お客様の様子	・客から「車やテレビを購入した」との声をよく聞くようになった。エコカー減税、エコポイント制度等消費促進の効果はあったが、我々の業界では恩恵がなければかりかかえてマイナス面が目立っている。	
スーパー（店長）	競争相手の様子	・近くに新たな激安店の進出があったことから、売上が減少している。	
スーパー（財務担当）	単価の動き	・競合他社の低価格競争が続いており、一部の商品については価格を合わせるため、一点単価、客単価ともに前年を下回るケースが続いている。	
スーパー（販売担当）	お客様の様子	・客の買上点数及び売上単価がともに減少している。	
衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・秋物も夏物最終セールも動いていないまま秋本番を迎えている。	
乗用車販売店（副店長）	来客数の動き	・エコカー購入補助金が終了する前後を比較すると来客数は半分以下に減少している。	
自動車備品販売店（経営企画担当）	販売量の動き	・販売単価下落の傾向は継続しているものの販売数で補ってきたが、ここに来て販売数も厳しい状況となっている。猛暑やエコカー購入補助金等で恩恵を受けるのも当業界では少ない。	
その他専門店〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・残暑が厳しく秋物の展示会では来客数も少なく売上も低調だった。	
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・昨年に比べ特に団体等の予約状況が悪くなっている。	
一般レストラン（経営者）	単価の動き	・猛暑で外食の単価の低下が目立っている。また、通常オフセールでの償却が減少傾向にある。	
一般レストラン（経営者）	競争相手の様子	・20年以上営業していた近隣の大型飲食店本社が2店閉店しており、依然として厳しい状況が続いている。	
スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数の減少及び主に中小企業の社長との話から状況は厳しい。	
その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（支配人）	お客様の様子	・飲食を中心に単価が低下しており、客の買い控えも進んでいる。	
観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・例年実績のある時期での予約が減少している。	
都市型ホテル（支配人）	販売量の動き	・売上増加のため最も重要な一般宴会の需要に伸びがなく苦戦している。	
タクシー運転手	お客様の様子	・以前は1日の運行で27回くらいの乗車があったが、最近では20回程度となっており、乗車単価も悪くなっている。	
テーマパーク（管理担当）	来客数の動き	・来館者数の動向が減少している。	
テーマパーク（広報担当）	来客数の動き	・8～9月の猛暑の影響で、屋外の観光地は敬遠される傾向がみられ来客数が大きく落ち込んでいる。	
ゴルフ場（営業担当）	お客様の様子	・暑い日が続く来場者が減少していることで、少ない客の取り合いとなり更に単価が低下している。	
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・客の購買意欲が薄らいでおり、来場者数も減少傾向にあるなか、来場者も一層慎重に構えている。	
住宅販売会社（経理担当）	お客様の様子	・来場する客の様子から景気が低迷している。	
悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・気候も過ごしやすくなり来客数を期待していたが、真夏以上に入客が悪く、売上金額も減少している。
	商店街（代表者）	単価の動き	・猛暑の影響で夏物の動きが出ると思われたが結果は非常に悪かった。暑すぎて消費者の購入意欲が伸びないということだが、根本には買い控えがあり、今の経済状況からいかに財布のひもをしめるかということに苦労している様子がありありとうかがえる。

		商店街（代表者）	来客数の動き	・猛暑の8月に比べ9月に入って来客数が伸びていない。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・猛暑もあるが政治経済すべての面で不安定な時期にあることが影響している。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・猛暑の影響もあり1品あたりの単価が上昇しているが、客は必要最低限のものしか購入せず、全体の販売数量が減少している。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・エコカー購入補助金終了後の販売量の動きは前年比50%で推移している。
		乗用車販売店（サービス担当）	販売量の動き	・新車販売台数が激減しており、エコカー購入補助金終了とともに前年を50%下回る台数で推移している。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・エコカー購入補助金終了が大きく影響している。
		一般レストラン（経営者）	それ以外	・来客数、客単価共に減少しており非常に悪い状況が続いている。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・宴会コースの単価が大幅に低下すると共に、毎月5%ずつ来客数が減少している。
		テーマパーク（業務担当）	来客数の動き	・9月中旬まで残暑が厳しく、客が出控えたことで来園者数が減少した。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・9月は残暑の影響もあるが来客数は非常に落ち込んでいる。経済的な問題も多く含まれているが、今のデフレ状況下ではこれから先のことが懸念される。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・客からは景気が悪くなり更に悪循環のなかで生活していることをよく耳にする。このままでは景気浮揚につながる要素は見当たらない。
企業動向関連	良くなっている	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・地元自動車メーカーからの受注量が順調に増加している。
	やや良くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外	・8月の状況を3か月前の5月と比較すると、水揚数量は940トン、水揚金額は1億8,600万円の増加である。その要因は大・中型巻き網、イカ釣り船の増加によるものである。また、前年同月と比較すると、水揚数量は399トン（前年同月比130.6%）、水揚金額は1億800万円（前年同月比126.5%）の増加である。その要因は大・中型巻き網、イカ釣り船の増加によるものである。
		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・予定外のOEM商品が増え、売上は予想より若干増加している。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・生産量自体の大きな増加はないが、耐火物を工場加工し納入する製品は好調な受注である。なお、仕事量の増加は社内応援体制でカバーし、閑散部署も残業体制に入っている。
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・足元は春先に比べ良くなっているが、10月以降の先取りのような部分もあり、実態は見かけほど良くなっていない。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・起工式が頻繁にあり、現場担当者の稼働率が上がっている。
		不動産業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・来店数、成約件数が増加している。
変わらない		食料品製造業（業務担当）	受注量や販売量の動き	・当社関連商品群では消費は低迷し、スーパー各社は値段競争に疲弊している。他社との差別化を図り単価を上げ利益を出したいとの思いはあるが、なかなか単価は上がらない。
		木材木製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・住宅着工は極めて緩やかな回復状態だがデフレも継続している。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・内需は依然として回復しておらず、工場はフル稼働となっていない。
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・エレクトロニクス関連材料に一部調整が開始受注が低調となっており、年末まで調整が続く。
		非鉄金属製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・全体的には特段の方向性はみられないが、エコカー関連など分野によっては急に冷え込んでいるものもある。
		金属製品製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注量、受注価格等大きな変化はなく、引き続き厳しい状況が続いている。生産量は生産能力の60%程度にとどまっている。
		一般機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・自社製品の売上について、国内市場では回復の兆しがみえ始めてきたが、依然として海外市場は冷え込みが厳しく、売上不振の状態が続いている。

	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注はあるがコスト面で合わない等様々な問題があり、受注動向を注視している。	
	輸送業（統括）	受注量や販売量の動き	・9月は鉄鋼製品の海外輸出が増加しており非常に好調に推移しているが、他の輸送部門は依然として停滞みである。	
	輸送業（運送担当）	取引先の様子	・依然として運送業者からの発送量が横ばいの状態である。	
	通信業（営業企画担当）	受注量や販売量の動き	・今年度の設備投資にかかわる客からの引き合いは継続している。価格面については依然として厳しい状況だが先月とほぼ同様の件数で推移している。	
	金融業（業界情報担当）	取引先の様子	・部品サプライヤーの国内生産は2直残業体制で操業している。売上高、利益とも昨年を上回る水準で推移している。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・大手企業にとどまらず、中堅・中小企業も従来以上の低金利で資金調達できる商品が整ってきているが、企業の資金調達意欲は乏しい。中小企業の経営者と話す機会があるが、経済が低迷するなか、投資に消極的であり資金繰りを維持するための資金調達にとどまっている。ここ3か月で大きな変動はみられない。	
	会計事務所（職員）	取引先の様子	・猛暑の影響で、屋外の作業の多い建設業では安全面での配慮から個人の長時間作業を制限していることから、予想以上にコストがかかっている。また、サービス業も人的配備のやりくりには通常以上に手間がかかっている。	
やや悪くなっている	化学工業（経営者）	取引先の様子	・取引先が生産計画を下方修正する動きが散見される。	
	その他製造業 [スポーツ用品]（総務担当）	受注量や販売量の動き	・相変わらず低価格化が継続しており、高付加価値商品の売行きが悪い。一方で数量的には徐々に伸びてきている。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年この時期はある程度の作業量が見込めるが、今年は厳しい状況が続いていることから、中小企業緊急雇用安定助成金制度等を利用するとともに、出費を抑える努力を行っている。	
悪くなっている				
雇用関連	良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・サービス業における求人募集が引き続き好調で、製造関係への従業員の派遣業からの募集や道路工事関係の交通誘導員の募集がある。
	やや良くなっている	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・求人数が前年比110%の見通しとなっている。
		人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・作業職の短期派遣需要は業界によって差はあるものの相変わらずお盛で、各事業所でも多くの受注残を抱えている状況であるが、短期的な需要のため、先行きは相変わらず不透明である。また、求職者の派遣離れ傾向も依然見受けられる。一方人材紹介事業に関しては、従業員50名以下の規模の企業からの需要も増加している。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	採用者数の動き	・2012年度（再来年春4月入社）の新卒採用計画が各社スタートしているなかで、「新卒採用は行おうが採用予定人数を設けず、良い人材がいれば採用する」というスタンスの企業が多く、質重視の慎重で堅実な採用活動を行っていかうという企業の考えがうかがえる。無理をして目標の人数まで採用することを控える傾向となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・8月の新規求人数は前月比3.7%増加しており、特に製造業では求人数の回復が顕著である。
		民間職業紹介機関（人材紹介担当）	求人数の動き	・求人情報誌を出している弊社では一時的ではあるが求人数が昨年に比べ150%を上回っている。
	変わらない	求人情報誌製作会社（支社長）	求人数の動き	・求人数は前月と大きな変化はないが、今後景気の悪化が考えられ、中途採用の求人数が減少する恐れがある。
新聞社[求人広告]（担当者）		採用者数の動き	・企業について再来年度の就職活動を遅らせる動きも一部あり、会社の状況がつかみにくなっている。	

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・基幹産業の製造業の求人が前年同月比で9か月ぶりに減少に転じた。特にハードウェア製造業で、エコポイント制度終了を控えて生産調整に伴う求人減少がみられる。
	民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・補充採用より増員採用の割合が多く、特に中小企業に目立った動きがあった。しかしながら人選は非常にシビアな傾向が続いており、1つの求人情報に多数の応募がひしめくという構図は変わっておらず回復とはいえない。
やや悪くなっている			
悪くなっている	-	-	-